

# STOP! 転倒災害

# 福岡局プロジェクト ハザードチェック

転倒災害を未然に防止ため、危険（ハザード）要因を「check」する必要があります。

近年の福岡県内における労働災害発生状況の推移は、増加傾向にあり、中でも、転倒は事故の型別で最も多く、平成30年における被災者数は1,370人（前年比：+20.2%）となっています。

労働災害防止活動において、転倒災害防止は「must」となっています。

労働災害発生状況の推移

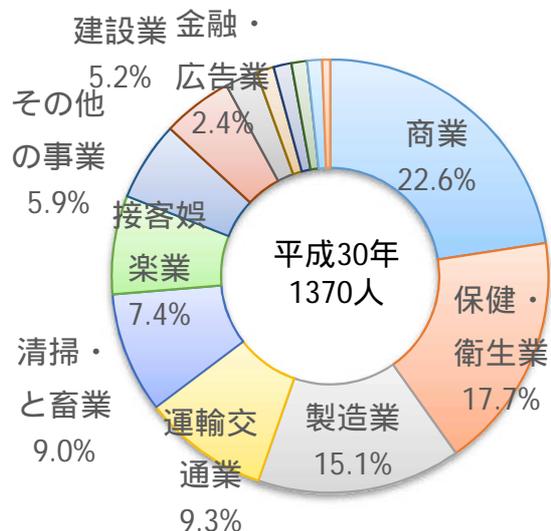


出所：労働死傷病報告

## 特徴 1

平成30年の災害統計をみると、業種別（大分類）では商業、保健・衛生業、製造業の順に多く発生しています。多発している業種の推移をみると、小売業は、高止まり、社会福祉施設、清掃・と畜業は右肩上がりに増加しています。

業種別労働災害発生状況



多発している業種別  
労働災害発生状況の推移

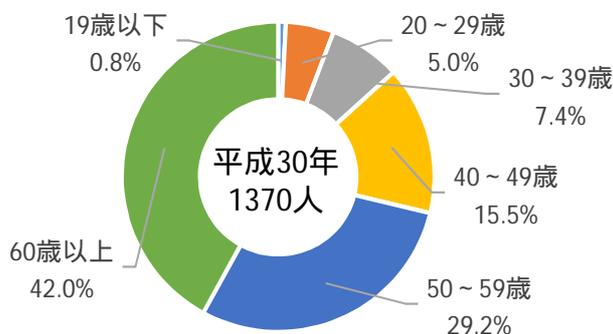


## 特徴 2

平成30年の統計を年齢別にみると、60歳以上が42.0%を占め、次いで、50歳代が29.2%となっています。50歳以上は、71.2%を占め、転倒災害は、高齢労働者が多く被災しています。

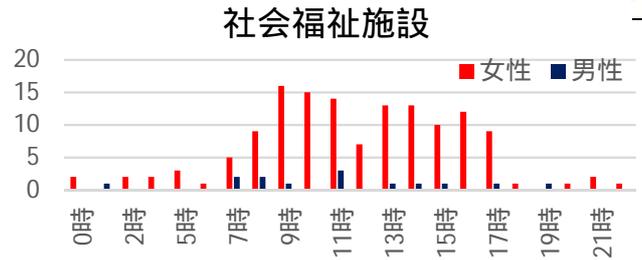
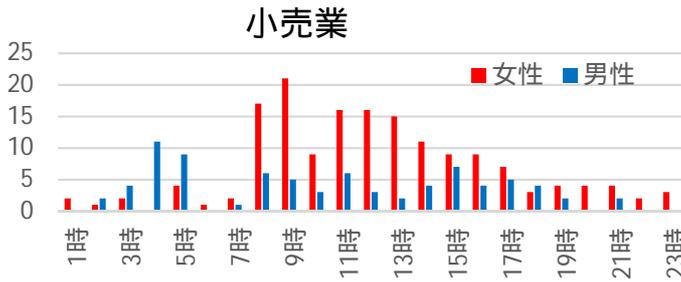


年齢別労働災害発生状況



### 特徴3

転倒災害が多発している小売業及び社会福祉施設においては、女性が多く被災しています。発生時間帯をみると、小売業においては、男性は4,5時、女性は8～9時に多発しています。社会福祉施設においては、男性は11時、女性は午前中に多発しています。



毎月、1日～7日にハザードチェックを行ってください。

ハザードチェック項目		レ
1	通路、階段、出口に物を放置していませんか	
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	
3	安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか	
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	
5	作業靴は、作業現場に合った耐滑性があり、かつ、ちょうど良いサイズのものを選んでいませんか	
6	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていませんか	
8	ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか	
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	

### 好事例紹介（小売業）安全・安心の確保のためのルールづくり

#### 背景

バックヤードの床通路は、転倒災害が最も多く発生する場所となっていたため、油こぼれや「水漏れ」によって床通路が滑りやすくなっていたことによるものが多い状況だった。また、惣菜部門において、揚げ物を作る際に、床にこぼれた油が、惣菜部門の従業員の作業靴に付着して、この従業員が、バックヤードの床通路を通過して、店内を歩き回ることによって、油汚れが店舗全体に広がってしまうことが原因となっていた。

#### 対策

##### 1 惣菜部門の油こぼれ防止ルール

フライヤーに入れる油の量を決定した。（底から6cm、上から7cm）

材料のフライヤーへの投入量を抑え、低い位置から投入することを徹底する。

揚げ終わった商品の移動は、ザルでの移動をやめてパッドでの移動に変更した。

##### 2 惣菜部門後方の油汚れ拡散防止ルール

惣菜作業場から、バックヤード通路に出る際には、マットで靴底を3回拭き取る。

惣菜部門後方のマット付近については、週1回、ケルヒャー（高圧洗浄機）を使用して、

マットから1mの範囲を目安に洗浄することにより、油汚れを放置しないようにした。

詳しくは、「STOP！転倒災害プロジェクト」、「職場のあんぜんサイト」をご覧ください！

STOP！転倒

検索

職場のあんぜんサイト

検索